

第4部 私たちのワークシート 沖縄戦

北上田源 里井洋一

一、はじめに

1. 「わたしたちのワークシート 沖縄戦」 は、1983年7月『歴史と実践第11号—特集 沖縄戦と教科書検定』に所収されている我那覇生吉・平良宗潤・田港朝昭・山川宗秀「わたしたちの『授業書』沖縄戦」に学び、モチーフを継承したものである。先行実践が中高校生を意識した教師用の授業書であるとするならば、本作品は小学生の自主学習を意識したワークシートである。
2. 「わたしたちのワークシート 沖縄戦」 で意識した点は次の3点である。
 - ① 小学校高学年を授業対象と考えた。もちろん中学校・高校で使用しても、より高度な認識を形成することができるであろう。
 - ② 沖縄戦の本質である「国体護持」のために住民が犠牲になったことが意識されるよう教材を配置した。具体的には本書第2部で、林博史氏が指摘している「5月下旬の段階、つまり首里がもはや陥落しようとする段階で、軍司令官は降伏を選択するのが通常の軍隊であろう。こうしたさまざまな点を見ると、沖縄戦における住民被害の多くは、戦争が生み出したものというよりは、日本軍が生み出したものである。」ということである。
 - ③ こどもが、沖縄戦の臨場感を得やすいようにするため、沖縄戦の典型的実相である安里要江さん一家の彷徨を先に学ぶ。その後、なぜ実相で学んだようなことに至ったのかを考えるため、2時限目で沖縄戦の経過を学ぶことにした。
3. この授業には、いくつかの教材が準備されている。
4. 「わたしたちのワークシート 沖縄戦」中には、発問・質問・指示などが準備されており、子どもたちは、これらにこたえていくという方式をとって学習をすすめていく。
5. 4でのべたような、質問・指示などに答えていくという方式は一見、子どもにとって受動的で課された作業も単純だから、単調な授業になってしまうように見える。しかし、この授業書では、子どもたちひとりひとりが、言い方を変えるならば全員が提示された資料をよく読み込んでいけるような配慮をしたつもりである。
6. 上記のようなことから子ども達は、質問や指示の要求に応じて、資料中の関係部分をよく見て答えるように仕組んだ。このようにして、子どもひとりひとりが、自分で、事象・事実を確認し、これにより、自分の意見をもつようになる道を開くようになる。

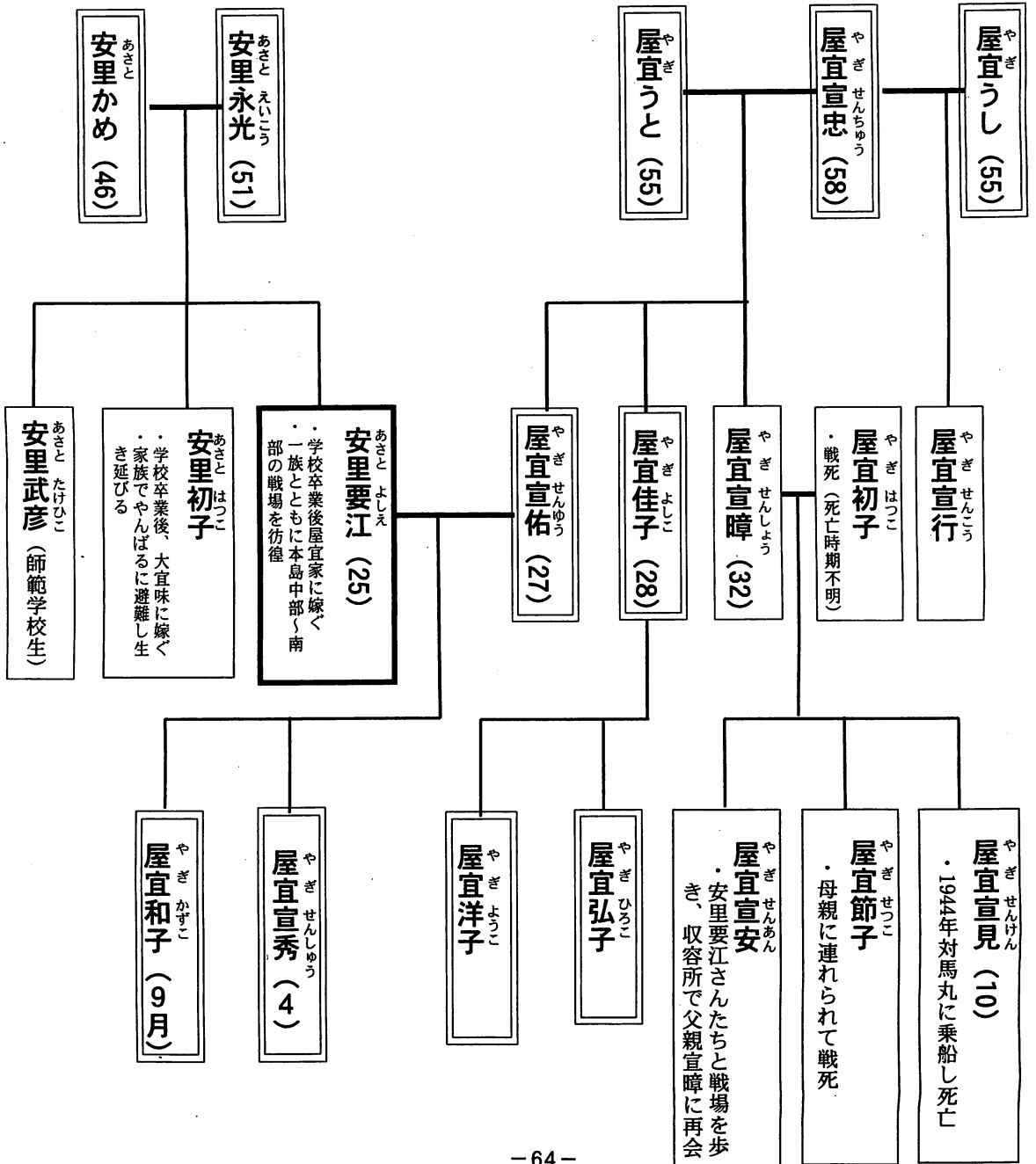
一時限目 「安里要江さんと家族の沖縄戦」

発問◎ 質問▼ 助言□ 指示△ 解説★

(1) 家族が兵隊になっていく

1△、資料①を見てください。

資料① 安里さん家族の家系図



2★、これは沖縄戦当時25歳だった安里要江さんという人の家族の家系図です。

3△、家系図を見て次のことを確認してください。

4▼、旦那さんの家族である屋宜家も含めて安里さんには何人の家族がいましたか？

資料②-1 安里さんと家族の日記 (1945年3月まで)

年月日(年齢)	出来事	要江の場所
1938年(18才)	卒業して家の会社の仕事をしていた屋宜宣祐さんと結婚し、故郷の中城村喜舎場を出て那覇で夫の家族(屋宜家)とともに住むようになる。	那覇(屋宜家)
1939年(19才)	義兄の宣暲さんが日中戦争から帰ってきて、家の会社を手伝うようになる	
1940年(20才)	夫・宣祐が肺結核になってしまう。	
1941年(21才)	長男・宣秀を出産する。出産の一週間後には太平洋戦争が始まる。	
1943年(23才)	東京の大学に通う夫の弟の宣行さんが学徒出陣で戦争に行くことになる	
1944年(24才)		
8月	甥の宣見ちゃんが乗った学童疎開船対馬丸がアメリカの潜水艦に撃沈されたらしいという噂が伝わってくる。何名か生存者がいたが、宣見ちゃんの話は届かず、みんなあきらめる。ついに我が家からも戦争の犠牲者が出る	喜舎場
9月	2人目のこどもの出産を迎えるが、戦争も近づいていて、那覇では危ないと言われ、実家の喜舎場に戻って無事女の子を出産する。和子と名づける。	
10月10日	空襲警報のサイレンが鳴り、墓に避難する。那覇では空襲で大きな被害が出たらしい。沖縄にはじめて本当の戦争がやってきたように感じた。	
11月	2人の子どもを連れて、夫の実家である屋宜原に戻り、夫の家族と合流する	大里村屋宜原
1945年(25才)		
3月	義兄・宣暲(32才)が防衛隊にとられ、日本軍の一員となる。一度中国に戦争に行っていた宣暲さんがまた戦争にとられるのだから、いよいよ敵の上陸かと思う。 弟・武彦が通っていた師範学校でも学徒隊が結成され、弟もその一員となる	

- 5★、答えは20人です。
- 6★、この家族が戦争に巻き込まれていくことになります。
- 7△、資料②-1の日誌を見てください。
- 8★、これは安里さんとその家族20名が沖縄戦の際にどのような体験をしたのかをまとめた日誌です。
- 9▼、この1945年3月までの部分を読んで、家族が兵隊になったのがわかる部分にアンダーラインをつけてください。
- 10★、沖縄が戦場になる前までに、学徒出陣、防衛隊、学徒隊という形で家族が日本の兵隊になっていることがわかります。
- 11△、資料①の家系図を見て、兵隊になった人には名前の欄の中に 下の絵のような「兵隊マーク」をつけてください。



- 12★、このように、戦争が行われる時には多くの人が戦争に参加させられます。
- 13★、特に、沖縄戦の時には訓練を受けた兵隊だけでは人数が足りなかったため、各地で防衛隊や学徒隊が編成されて、45才～17才の男性市民も中学生や女学生も兵隊のような仕事をするのが求められました。

(2) 5月までの戦場彷徨

- 14△、次に、資料②-2の日誌を見てください。
- 15★、安里さんは家族と一緒に戦場になった沖縄を逃げまわることになります。
- 16△、資料②-2の日誌を読んで、次のことを確認してください。
- 17▼、安里さんの家族は屋宜原という所から逃げはじめて数ヶ所を移動しますが、それぞれの場所にいるときに、どのようなところで過ごしていたでしょうか？
- 18△、日誌中の過ごしていたところが書かれている部分に○をしてください。たとえば、最初は屋宜原という場所において、艦砲射撃を受けて近くの壕に隠れたと書いてあります。だから、この場合は「近くの壕」に○をします。
- 19△、あとの場所も同じように○をつけていきましょう。
- 20△、資料③の地図を見てください。
- 21★、この地図には安里さんの家族が3月23日以降逃げていった場所が書かれています。

資料②-2 安里さんと家族の日誌

年月日	出来事	要江の場所
3月23日 3月24日～	はじめて艦砲射撃を受け、魂がぬけるほど驚いて家族で家の近くの壕に入る 日本兵から「南の方から米軍が上陸するようだ」と聞き、屋宜家11名で北部（やんばる）を目指す。途中、故郷の喜舎場に寄っている間に攻撃が激しくなり、31日までは喜舎場の墓などに避難する。	屋宜原 喜舎場
4月2日	日本兵から「敵はすぐそこまで来ているよ」と聞き、首里に移動し、西森の壕へ避難する。最初は喜舎場と違って爆音も聞こえないのでとても安心した。	首里
4月9日	後から来た日本兵に「ここでぼやぼやしておるとみんな死ぬと思いなさい」と言われ、夕方首里の壕を出て夜中歩いて那覇・上泉の屋宜家の家を目指す。	
4月10日	午前3時ごろ上泉に着くが、家は焼けていたので那覇・壺川の農園の壕に入る。雨水がたまって困ったが、4月中はここにいる	壺川
4月下旬	日本兵に「那覇はもう危なくなった、南部に行くしかない」と言われ、屋宜原に戻ることを決める。私達は南の方に行くことにより命が救えるものと信じていた。途中山川付近で激しい攻撃を受けて2日間タコツボに隠れる。	山川
4月末	タコツボ……戦場で兵士一人が隠られるように掘られた穴のこと 那覇を出て3日後に屋宜原の主人の実家に着き、家の近くに掘ってあった大きな壕に避難し、5月いっぱいほわりと安心な日々を過ごす。（日本軍の司令部がある）首里がやられれば戦争は終わるものだと思って、ここまで米軍が来ることはないと思っていた。	屋宜原
5月末	米軍が与那原に来ているとの情報があり、機関銃の音も聞こえるので敵に追われるように南の島尻方面へ移動することにする。	

- 22△、資料②-2の日誌の右端の欄の「要江の場所」が地図中に出てきます。それぞれ探して地図中の地名にアンダーラインをつけましょう。
- 23△、それぞれの地名が探せたら今度は、さっき○をつけた資料②-2の日誌を見ながら、地図中の地名の右側に「隠れ場所マーク」を記入していきます
- 24△、墓や塚（ガマ）に入っていた場所の地名の右側には●を記入しましょう。
- 25△、タコツボに入っていた場所の地名の右側には▲を記入しましょう。
- 26△、それ以外の豚小屋や溝、木の陰、岩のくぼみ、石垣の壁などで過ごした場所の地名の右側には○を記入しましょう。
- 27△、それができたら、今度は安里さんたちの移動した道順に沿ってそれぞれの地名を矢印で結びましょう。
- 28★、3月末に屋宜原を出発して、4月末に屋宜原に戻ってきたのがわかりますね。
- 29△、資料②-2の日誌を見て次のことを考えてみてください。
- 30◎、資料②-2の日誌に出てくる時期の中で、安里さんたちが一番安心して過ごすことができた時期はいつでしょうか？日誌に書いてあることをもとに考えて、日誌の左端の年月日の欄に「安心」と書き込んでみましょう。そう考えた理由を書いてみましょう。

2 時限目「安里さんと家族の沖縄戦②」

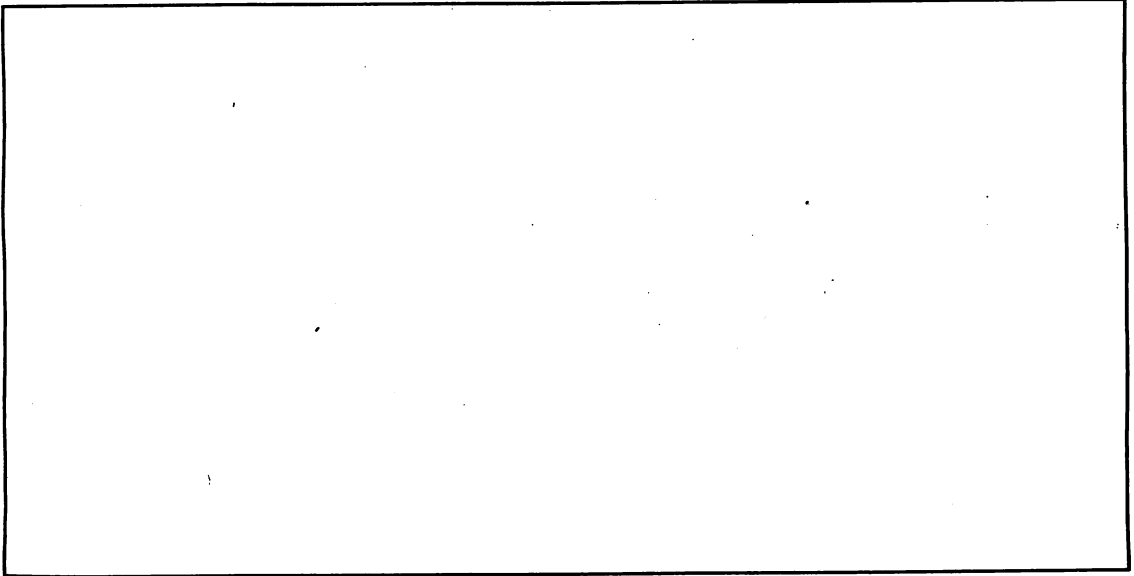
(3) 島尻での彷徨

- 31△、資料②-3を見てください。
- 32★、これは、5月末に屋宜原の家を出て南部に逃げたあと、アメリカ兵に捕まるまでの安里さんと家族の行動をまとめた日誌です。
- 33▼、安里さんの家族は屋宜原を出たあと数ヶ所を逃げることになりますが、それぞれの場所にいるときに、どのようなところで過ごしていたのでしょうか？
- 34△、前回と同じように、日誌中の過ごしていたところが書かれている部分に○をしてください。
- 35△、また、家族が亡くなったと書かれている部分にはアンダーラインをひいてください。

資料②-3 安里さんと家族の日記（1945年6月）

年月日	出来事	要江の場所
6月1日～	一行17人で屋宜原を出発、具志頭村安里に移動して壕を探すが、日本兵がいっぱい避難民は追い払われる。木の陰、石垣にもたれて砲弾を避けながら真栄平に移動し、真栄平では豚小屋に入って夜を明かす。	安里～真栄平
6月7日	新垣を通して国吉に移動するが、大きな家は避難民でいっぱいだったため、溝の中に一列に腰をおろして一夜を明かす。この頃はもう、死ぬのが怖いという気持ちはなかったが、苦しみたくなかったので「ひと思いに一撃をお願いします」と手を合わせていた。	国吉
6月8日、9日	避難中いつの間にか父・永光とはぐれてしまう。その時に「もうあきらめよう」と泣いていた母・カメが、真壁で岩山の陰に隠れているときに米軍の攻撃を受けて亡くなる。（父とは後に収容所で再会する） 米須に移動し、農道の排水路に腰をおろしていると、米軍の攻撃を受け、夫の母・ウトさんが焼死してしまう。ウトさんは足が不自由だったが、自分が逃げるので精一杯で「ごめんね」と心の中で手を合わせて逃げるしかなかった。	真壁 米須
6月10日	なんとか壕に隠れようとするが、あちこちで日本兵に追い払われる。敵上陸前は世話をしたりしてあげたのに、戦闘になると邪魔者あつかいするのかと悔しかった。結局行く場所もなく、糸洲近辺の岩山にあるくぼみに隠れるが、体の大きな夫の父・宣忠さんが穴の中に入れず、入り口付近で至近弾の破片を受け亡くなる。	糸洲
6月11日～	一帯の小山には壕がたくさんあったが、入り口にいた日本兵に「君達がこんなところをウロウロしているから戦はここまで追い込まれるんだぞ」などと言われ、入れてもらえなかった。 何とか地元の人に教えてもらった伊敷の轟の壕に入ることができた。入ったときは「これで助かった」と思い、まるで天国に上ったような気分だった。数日後、米軍が馬乗り攻撃を始める。日本兵が「こどもを泣かすと始末するぞ」と怒鳴る声を聞く。その後、実際に日本兵がこどもを殺したと言う話も聞く。	伊敷 (轟の壕)
6月16日ごろ	胸に抱いていた娘・和子ちゃんが壕内で死んでしまう。真っ暗だったので死に顔も見えず、顔や手足をずっとなでまわし、その感触をいつまでも覚えておこうとするが、冷たくなるわが子を前にして、泣く気力もなかった。	
6月23日	米兵の呼びかけに応じて壕から出て捕虜になり、豊見城の伊良波の収容所に連行される。主人とは離れ離れになる *馬乗り攻撃……ガマの入り口から内部に向かって攻撃を加えること	豊見城伊良

- 36△、資料③の地図を見てください。
- 37★、この地図には安里さんの家族が屋宜原を出てから逃げていった場所が書かれています。
- 38△、資料②-3の日誌の右端の欄の「要江の場所」が地図中に出てきます。それぞれ探して地図中の地名にアンダーラインをつけましょう。
- 40△、それぞれの地名が探せたらもう一度、○をつけた資料②-3の日誌を見ながら、地図中の地名の右側に「隠れ場所マーク」を記入していきます
- 41△、墓や壕（ガマ）に入っていた場所の地名の右側には●を記入しましょう。
- 42△、タコツボに入っていた場所の地名の右側には▲を記入しましょう。
- 43△、それ以外の豚小屋や溝、木の陰、岩のくぼみ、石垣の壁などで過ごした場所の地名の右側には○を記入しましょう。
- 44△、それができたら、今度は安里さんたちの移動した道順に沿ってそれぞれの地名を矢印で結びましょう。
- 45▼、3月23日に逃げはじめてからアメリカ兵に捕まるまで、何人の家族が亡くなっていましたか？
- 46★、安里さんの母と夫の両親、そして安里さんの娘の4人です。
- 47△、地図中でその4人がなくなった場所を探し、地名のところに「家族が死んだ場所マーク」を記入していきましょう。
- 48◎、これまでの作業を通して気づいたこと、疑問に思ったことを記入してください。



(4) 終わらない沖縄戦

- 49△、資料②-4の日誌を見てください。
- 50★、米兵に捕まった後、故郷の喜舎場に帰るまでに安里さんたちは各地の収容所を転々とします。
- 51△、資料②の日誌の米兵に捕まってから故郷に帰るまでの部分を読んで、家族の誰かが亡くなった、または生き別れになったと書いてある部分にアンダーラインをつけましょう。

資料②-4 安里さんと家族の日誌（1945年3月まで）年月日（年齢）出来事 要江

年月日（年齢）	出来事	要江の場所
6月23日	米兵の呼びかけに応じて壕から出て捕虜になり、豊見城の伊良波の収容所に連行される。主人とは離れ離れになる	豊見城伊良波
6月24日～ 6月末	宜野湾・野嵩収容所に連れられ、約一ヶ月いる。 姑・ウシが収容所内で行方不明になり生き別れになる（二度と再開できず）	宜野湾野嵩
8月初旬	離れ離れになった主人と野嵩の収容所で再会することができ、生きる勇気がわいてくる。	
8月5日ごろ	米軍の命令で宜野座・古知屋に移動	宜野座古知屋
8月12日	収容所で夫宣祐が栄養失調で死んでしまう。せっかく戦場を生き延びたのに、収容所で死ぬなんて悔しい気持ちでいっぱい言葉も出なかった。	
8月中旬	親戚のすすめで福山の収容所へ移動、福山では水汲みの仕事をする	福山
10月4日ごろ	長男宣秀が突然前日から高熱を出し、あつけなく息を引きとる。肺炎のためだと考えられる。ついに一人きりになってしまい、やけっぱちな心境になる。	
12月	国吉あたりで離れ離れになった父・永光が石川の収容所にいると聞き、わずかな希望をたくして石川に行ってみると、無事父と再会できる。さらに弟の武彦、妹の和子の無事もわかり少しずつ生きる希望がわいてくる。	石川
1947年(27才)	石川収容所で義姉・佳子の娘・洋子が栄養失調で死亡 石川収容所を出て故郷・喜舎場に戻る	喜舎場

52▼、収容所で亡くなった、または生き別れになったのは何人ですか？

53★、安里さんの夫の母、夫、息子、義姉の娘の4人ですね。

54△、最後に、資料①の家系図に「亡くなった人マーク」をつけましょう。

55△、1945年3月までに亡くなった人には▲を、4月から5月の間に亡くなった人には★を、6月に亡くなった人には■を、7月以降に亡くなった人には●を名前の欄の中に記入しましょう。

56△、授業を振り返ってわかったこと、もっと知りたいと思ったことを記入してください。

三時限目 沖縄戦の経過

一、日本の植民地・支配地・占領地

57△、資料④をみてください。

58★、資料④は明治以来、日本が関係した戦争年表です。

資料④ 日本が関係した戦争

年代	戦争	その結果
1869年	台湾出兵	→沖縄県の設置(1879年)
1894年	日清戦争	→台湾を植民地(1895~45年)
1904年	日露戦争	→朝鮮を植民地に(1910~45年)
1914年	第1次世界大戦	→南洋諸島を植民地に(~44年)
1931年	満州事変	→中国東北部支配
1937年	日中戦争	→中国占領
1941年	太平洋戦争	→東南アジア占領

59△、資料④をみて、戦争の結果、日本の植民地になったところは○を、支配地には△を付け、占領地には下線をひきましょう。



二、沖縄戦の始まりと終わり

△44、資料⑤をみてください。

★46、資料⑤は沖縄戦年表です。

資料⑤ 沖縄戦年表

年代	事項
1941年8月	1891年に首里城から日本軍が退去した後、50年ぶりに中城湾・西表島船浮湾に日本軍基地が建設される。
1942年～	石垣島平喜名飛行場が建設される。
1943年5月26日	嘉義丸が奄美大島沖合で米軍潜水艦によって撃沈、沖縄へ引き揚げる出稼ぎ者321人が犠牲。秘密とされ、1982年に明らかとなる
1944年3月22日	日本は沖縄に第32軍を新設する。
1944年5月～	沖縄住民が総動員されて、伊江島、沖縄本島読谷・嘉手納・牧港・西原・石嶺・那覇・与根、宮古島海軍・西・中、石垣島平得・白保・宮良、南大東島に計17の飛行場が建設された。
1944年6月15日	米軍サイパン上陸、
1944年7月7日	日本政府は南西諸島住民に対し、老人・子ども、その世話をする女性に限り、九州・台湾へ疎開するよう命令。
1944年8月22日	学童疎開船対馬丸撃沈
1944年10月10日	沖縄島大空襲（十空襲）、第32軍500万発の弾薬と大量の燃料、1月分の食料消失
1945年1月9日	米軍フィリピン上陸
1945年1月31日	沖縄県男子17～45歳を防衛隊員として召集
1945年3月23日	米軍沖縄本島の爆撃を開始する
1945年3月26日	米軍慶良間列島に上陸
1945年4月1日	米軍沖縄本島中部西海岸に上陸
1945年4月5日	米軍読谷に軍政府設立
1945年4月9日	賀数高地周辺での激しい戦闘が始まる
1945年5月27日	7割の兵力を失った第32軍摩文仁へ敗走
1945年6月19日	第32軍牛島司令官最後まで戦えと最後の命令*
1945年6月22日	第32軍牛島司令官自決し司令部消滅
1945年6月30日	米軍南部掃討作戦終了
1945年8月4日	米軍北部掃討作戦終了
1945年8月15日	天皇終戦の弁をラジオで放送
1945年9月7日	嘉手納で降伏調印式

60△、年表をみて次のことを確認してください。

61△、要江さんの長男宣秀ちゃんが生まれた年に50年ぶりに沖縄県に日本軍の基地が設置されました。

海軍の二つの要塞です。その場所を資料⑥沖縄地図からみつけ○をつけます。

- 62△、宣秀ちゃんのおじさん宣行さんは東京の大学に行っていましたが、兵隊にされました。その年に、兵隊でない沖縄の人々が米軍によって犠牲となりました。何人の人が亡くなったでしょうか。年表のその部分に○をつけましょう。
- 63△、宣秀ちゃん3才の年の3月に、沖縄に第32軍が設置され、県民45万人のところに、約10万人の兵力が配置されました。そして5月、沖縄に17の飛行場が小学生を含む県民を総動員して建設が始まりました、設置された17の飛行場を資料⑥沖縄地図の中からみつけ、×をつけましょう。
- 64☆、6月、南洋のサイパンに米軍が上陸し、移民で南洋に行っていた多くの沖縄出身の人々が死に追い込まれました。要江さんがお産のために帰っていた実家のある喜舎場村出身者も8人が亡くなっています。
- 65△、8月、宣秀ちゃんのいところで小学生だった宣見ちゃんは疎開するためにのった対馬丸が米軍によって撃沈され死亡してしまいます。年表の中から宣見ちゃんが疎開することになった原因と思われる事項に線を引いてください。
- 66△、10月アメリカの飛行機1400機が沖縄島を爆撃し、要江さんたちはお墓で数日間すごしました。那覇は焼け野原になりました。年表の中の日本軍の被害部分に×をつけましょう。
- 67☆、要江さんたちが大里村屋宜原に移り、長女和子ちゃんが生まれて100日がたったころ、東南アジアのフィリピンに米軍が上陸し、移民でフィリピンに行っていた多くの沖縄出身の人々が死に追い込まれました。喜舎場村出身者も35人が亡くなっています。
- 68▼、米軍約50万人が沖縄島を取り囲み艦砲射撃を始めたのはいつですか。
- 69▼、慶良間島に米軍が上陸したのはいつですか。
- 70▼、沖縄島に米軍が上陸したのはいつですか。
- 71▼、米軍が沖縄島に上陸した時、要江さんたちはどこにいましたか。
- 72▼、米軍は無血で沖縄島に上陸し、読谷・北谷・沖縄・うるまを占領し、軍政府を読谷に設立したのはいつですか。
- 73▼、嘉数高地をめぐるの激しい戦いが始まり、日本軍司令部が首里から敗走するまでの間に日本軍の兵力は何万人に減ったでしょうか。
- 74▼、日本軍司令部が首里から敗走した時点で、安里さんの家族は何人が死亡していましたか。
- 75◎、沖縄戦が始まったのはいつだとおもいますか。年表の中に赤でアンダーラインをつけてください。
- 76◎、では沖縄戦が終わったのはいつだとおもいますか。年表の中に赤でアンダーラインをつけてください。
- 77◎、75や76でそう思った理由を書きなさい